

実り多き 5 日間

いわき明星大学 薬学部 5 年 大川原拓哉

(配属先：細胞外環境研究チーム)

今回私は運よくこのインターンシップに参加する事ができ、最先端に行く研究者の先生方に囲まれながら刺激を受け、学び、研究哲学を再構築する貴重な体験ができたと思います。

まず私が今回のインターンに応募した目的ですが、興味のある再生医療(幹細胞)を取り扱っている研究室の雰囲気を知ること、研究者の先生方と幹細胞の基礎研究についてディスカッションをすることでした。卒業後の進路を考えていた私はラボ訪問の絶好のチャンスではないかと思い、毛包幹細胞を扱う細胞外環境研究チームへ応募する次第となりました。結果的に、ラボの雰囲気を味わいながら藤原先生、筒井先生はじめ研究員の先生方とディスカッションする機会に恵まれ、目的は十二分に達成できました。

藤原先生の細胞外環境研究チームにおいて、「毛包幹細胞の不均一性」について研究をさせて頂きました。事前にバックグラウンド等の参考文献を提示頂いた為、事前に自分の中で実験系を組み立てることができ、待ち時間に疑問点等のディスカッションを挟みながらスムーズに実験が進められました。発表準備の際にも研究者の目線から多々ご指摘頂き、今の自分に何が足りないのかを見つめ直すことができました。

また今回のインターンでは大学・学部間の垣根を越え、様々なバックグラウンドを持つ学生が集まるため、どのようなディスカッションができるのか楽しみにしていました。予想通り研究哲学が異なり、結果の解釈が異なり、考察における優先順位も異なり、一致するのは食事タイミングと宿泊場所くらいのものでした。しかし、そのようなディスカッションは凝り固まった私の視点を解してくれるものであり、とても有意義な時間でありました。今後も連絡を取り合うような友人ができたことはとても嬉しいことで、学会等で再開した際には再び話し込みたいと思います。

老婆心ながら、このインターンを受けようと考えている学生にアドバイスを。このインターンの一番の醍醐味は個人的には PI や研究員の先生方とのディスカッションだと考えます。CDB に到着してから 1 から教わるのではなく、メール等を利用して事前に自分の中で実験系を理解・構築し、その齟齬をディスカッションにより矯正していくようなスタンスを取ると、余裕も生まれ、より有意義なインターンになるかと思います。また、発表の準備は実験と平行して行いましょう。

最後に、お忙しい中にも関わらず、至らない私を快く受け入れて下さった細胞外環境研究チームの藤原先生はじめ研究員の先生方、このインターンシップに携わって頂いた全ての CDB スタッフの先生方に厚く御礼申し上げます。



研究発表会での大川原拓哉さん（左）